

STAGE+を楽しむ(146)(HP 収載)
—ブッフビンダーのベートーヴェンのピアノ・ソナタ(1)—

1. 始めに

前報(145)に引き続き、STAGE+のブッフビンダーのベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ブッフビンダーのベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の演奏を選びました。

ブッフビンダーがベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲を演奏 (1)

東京・春・音楽祭 (2024 年)

収録日: 2024 年 3 月 21 日

東京で開催されている日本最大級のクラシック音楽祭「東京・春・音楽祭」は 2024 年に 20 周年を迎えます。記念すべき年のプログラムの柱となっているのが、ルドルフ・ブッフビンダーによるベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏です。ステージプラスではそのうち 2 回分が生配信されます。コンサートの第 1 弾となる今回は、作曲者の最も有名なソナタである第 8 番《悲愴》と、中期の重要な作品である第 21 番《ワルトシュタイン》をはじめ、愛らしい 2 つの短いソナタ (第 20 番と 25 番)、そして初期の傑作である第 11 番をご覧ください。

ソリスト:

ルドルフ・ブッフビンダー (ピアノ)

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ピアノ・ソナタ第 11 番変ロ長調 op. 22

ピアノ・ソナタ第 20 番ト長調 op. 49-2

ピアノ・ソナタ第 8 番ハ短調 op. 13 《悲愴》

ピアノ・ソナタ第 25 番ト長調 op. 79

ピアノ・ソナタ第 21 番ハ長調 op. 53 《ワルトシュタイン》

ピアノ・ソナタ第 17 番ニ短調 op. 31-2 《テンペスト》



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

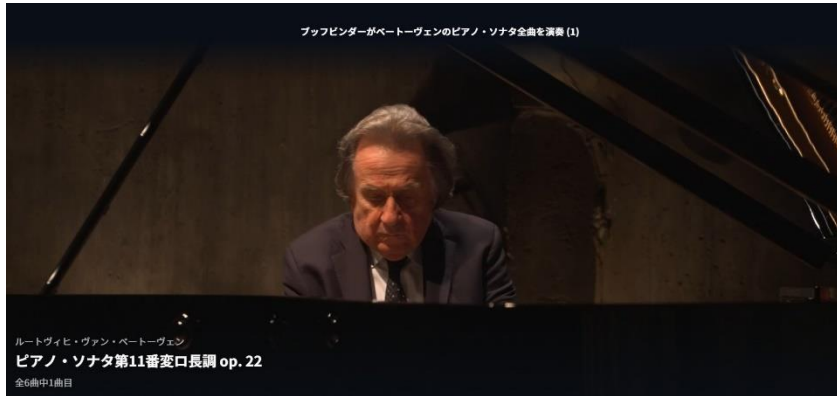
また、CDクリーナーの効果(9)で報告しましたようにPCのストリーミング再生において、PCの液晶画面とLAN iSilencer とルーター に対するCDクリーナーの処理を行っています。今回、スイッチングハブとルーターのLANポートにフェルトダンプ端子を装着しています。

今回のプログラムは東京春の音楽祭のブッフビンダーによるベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏の2回目で、初回の演奏は、東京春祭を楽しむ(36)でリアルタイムのライブ配信の試聴で報告しています。

初回の演奏の東京春祭を楽しむ(36)では、「ブッフビンダーのピアノは、気張ったところがなく優しくソフトな演奏です。そうかと言って、つまらないところはなく、淡々と演奏しているようでしみじみとした味わいがあります。そういった表情が、1年間の間の種々の対策の成果を受けて実現されています。」と記載されています。今回は、配信元がSTAGE+になり、スイッチングハブとルーターのLANポートにフェルトダンプ端子が装着されています。

ブッフビンダーのピアノは、初回の演奏と同様、自然体で優しくソフトな演奏で淡々と演奏しているようでしみじみとした味わいがあります。

音質的には配信元が STAGE+になり、スイッチングハブとルーターの LAN ポートにフェルトダンブ端子が装着された効果で、ピアノの音は誇張感がなく、打鍵とそれに続く余韻も生のピアノを聴いているような感じです。



4. まとめ

昨年からのスピーカーアキュライザーの導入と位置変更、LAN アキュライザーの導入、LAN iSilencer の導入、Crystal EpL の導入に加えて、フェルトダンブ端子の効果で、音質向上が実現できており、ブッフビンダーの自然体のピアノニズムを味わうことができました。

以上